

成果の説明書

(氏名) 丸山奈穂	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>① 研究</p> <p>➤ 調査データの収集</p> <p>オーストラリア、ニューサウスウェールズ州ニューカッスル市において、地域の脱工業化とその後の観光地化に関する住民の考えを探るためにインタビューを実施した。特に、「鉱業の町」から「観光地」への地域アイデンティティの変化に対する住民の意識に焦点をあて住民 25 名に対してインタビュー調査を実施した。</p> <p>➤ 論文の執筆、投稿</p> <p>外国人街の観光地化に関する論文 1 件が受理された (International Journal of Tourism Research)。また、住民と観光者の間の関わりや心理的なつながりに関する論文 1 件が受理された (Tourism Management)。</p> <p>② 教育</p> <p>➤ グループ研究の実施</p> <p>演習 I では、昨年同様グループ研究に取り組んだ。今年度もゼミを 3 つのグループにわけ、研究テーマの設定から研究計画書の執筆、調査関係機関への協力依頼、調査の実施、報告書の完成までを学生が主体的に進めた。調査は、榛名湖イルミネーションの実行委員の方々、ロックハート城の観光客の方々、秩父市住民の方々の 3 つのグループを対象に行った。今年度は前期の後半からグループ研究に取り組んだため、後期終了時に研究レポートを仕上げることができた。また、サブ研究として、訪日外国人の増加にまつわる問題点についての文献調査を実施した。</p> <p>➤ 学園祭における戦略的な販売の実施</p> <p>演習 I 生を中心に学園祭で出店をした。毎年行っているが、昨年度に続き本年度は特に売り上げ目標の設定とそのために必要な戦略を立て、それに基づいて販売をした。また、次年度のために手順などをデータ化することに努めた。</p> <p>➤ 卒論のためのデータ収集</p> <p>演習 II では、全員が卒論のためのデータを学外で収集した。3 年次に行ったグループ研究での経験を応用し、個人ですべての作業を行うことができた。</p> <p>➤ サマリーシートの作成</p> <p>演習 I および II では、読んだ文献の要点をまとめ、さらに批評を記入したサマリーシートを毎回作成提出させることにより、文献を批判的に読む姿勢、またディスカッションに準備をして臨む姿勢の向上がみられた。</p> <p>ディベートの実施</p> <p>観光地において、特に賛否が分かれる点 (例：ダークツーリズムの対象となる建物内に観光客向けのカフェを作ることの是非) に関して、ディベートを行った。主観的な意見ではなく、客観的にデータをそろえ議論することを目標とし、有意義な議論が出来た。</p> <p>➤ ディスカッション、プレゼンテーション、プロジェクトの実施</p> <p>各講義では毎回グループディスカッションを行い、学生が考え発言する能力を高めることができた。自ら挙手し発言する学生も増えてきた。また、グループでのプレゼンテーションを行い、与えられた課題のなかで、リサーチをする能力を付けた。</p>	

2 その他の事項

3 次年度以降の計画・抱負

研究面では、今年度収集したニューカッスルでのデータに基づいて論文を執筆したい。また、日光でのアンケート調査（科研基盤（c））を実施したい。教育面では、演習Ⅱにおいては、就職活動と卒論執筆の両立できるよう学生を励ましていきたい。演習Ⅰにおいてはグループ研究のデータ収集方法に関してより科学的な方法を使えるようにしたい。講義においては、クラス内での積極的な発言を促すよう努力したい。